

登録コード:MH318300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	運動器疾患の理学療法（含む演習）【20M以降】 Musculoskeletal Physical Therapy			
担当教員	北川 孝 中村 慶佑			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学専攻/3年 前期 木曜・1時限 木曜・2時限			
単位数、講義室	2単位	保健学科運動療法実習室		遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。		運動器疾患における疾患別の基本的な理学療法評価および治療の内容を理解し、問題解決のための介入計画を科学的根拠に基づき立案および実践することができる。	
	MH25カリ・保健・理学、MH23カリ・保健・理学			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		運動器疾患の概要およびそれぞれに特異的な機能障害を学び、運動器疾患における理学療法の評価と実践との関連を理解し、説明することができる	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		運動器疾患の概要及びそれぞれに特異的な機能障害を学び、運動器疾患における理学療法の評価と実践との関連を理解し、課題解決の方法を説明することができる	
授業で学べる「テーマ」	健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	骨・関節疾患などの運動器疾患の特性を理解するとともに、それぞれに対する理学療法評価・治療の考え方と実際について学修します。 本授業は、1年次に学んだ「系統解剖学」、「運動学」、「機能解剖触診法(旧 運動療法基礎論)」、2年次に学んだ「運動学実習」、「理学療法評価法」、「理学療法評価法」、「整形外科学」、「理学療法治療法」、「理学療法評価法実習」の発展科目に位置付けられ、3年次前期の「理学療法治療法実習」の内容と相補的に学んでいくこととなります。そして、本授業の内容は、3年次後期に学ぶ「臨床能力演習」、「徒手療法基礎論」、「スポーツと理学療法」、「臨床基礎実習」および4年次の臨床実習における重要な基礎知識となります。 本授業は、担当教員の医療機関における理学療法士としての実務経験を活かして講義を行います。			
授業計画	第1回 (4月 9日) 診療ガイドラインの利活用 (北川) 第2回 (4月23日) 大腿骨近位部骨折の理学療法 (中村) 第3回 (5月 7日) 整形外科徒手検査法の概要、足関節・膝関節の検査法 (北川) 第4回 (5月14日) 股関節・骨盤の検査法 (北川) 第5回 (5月21日) 肩関節・肘関節・前腕/手関節の検査法 (北川) 第6回 (5月28日) 腰椎・頸椎の検査法 (北川) 第7回 (6月 4日) 実技演習 (北川) 第8回 (6月11日) <実技試験> (北川・岡野) 第9回 (6月18日) 変形性股関節症に対する理学療法 (北川) 第10回 (6月25日) 変形性膝関節症に対する理学療法 (北川) 第11回 (7月 2日) 肩関節疾患に対する理学療法 (北川) 第12回 (7月 9日) 脊椎疾患に対する理学療法 (北川) 第13回 (7月16日) スポーツ傷害(外傷・障害)に対する理学療法 (北川) 第14回 (7月23日) 運動器疾患に対する超音波画像の活用 (北川) 第15回 (7月30日) 最新トピックス、授業アンケート (北川) 第16回 (8月 6日) <期末課題> (北川)			
授業の進め方	本授業は、パワーポイントスライドや教科書に準じた講義と、必要に応じて一部の講義では臨床場面を想定した評価・治療を学生同士が2人1組となって実際に行うことによって、実践的な技術の修得を図っていきます。			
テキスト、教材、参考書	教科書： ・松村将司，三木貴弘(編集)：適切な判断を導くための整形外科徒手検査法エビデンスに基づく評価精度と検査のポイント.メジカルビュー社，2020. ・対馬栄輝，有馬慶美(編集)：骨関節障害理学療法学.文光堂，2020. 参考書： ・柳澤 健・他(監訳)：エビデンスに基づく整形外科徒手検査法．エルゼビア・ジャパン，2014. ・木村貞治，高橋哲也，内 昌之(編集)：障害別運動療法学の基礎と臨床実践．金原出版，2020． ・黒沢和生(監修)：運動療法大全 基礎編 第6版．ガイアブックス，2016. ・黒沢和生(監修)：運動療法大全 実践編 第6版．ガイアブックス，2016.			
成績評価の方法	講義主体の回に行う小テスト，第8回での実技試験（中間試験）および第16回での期末課題の結果に基づいて，総合的に評価します。			

成績評価の方法	総合的評価の配分は、小テスト40%、実技試験30%、期末試験30%の配分比率で合計したものを最終評点とします。実技試験では第3回～第7回までの講義内容の理解・修得度を、期末課題では第1回、第2回および第9回～第15回までの講義内容の理解度を、それぞれ確認します。
成績評価の基準	実技試験に関しては、 最低限の評価、治療を行うことができれば「水準にある（可）」、 基本的な評価、治療を行うことができれば「やや上にある（良）」、 応用的な評価、治療を行うことができれば「かなり上にある（優）」、 応用的な評価、治療を円滑に行うことができれば「卓越している（秀）」、 と評価します。 期末課題に関しては、 (i) 問題の設定が適切であり、 (ii) その問題の背景を説明できており、 (iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、 (iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、 (v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している(秀)」。 (i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある(優)」。 4項目までできていれば「やや上にある(良)」。 3項目までできていれば「水準にある(可)」。 と評価します。 2回の試験・課題の結果をそれぞれ40点に換算し、それらと小テストの合計点に基づいて以下のように評価します。ただし、上記のうち片方の試験・課題が評点が50%に満たない場合は不可とします。 90～100点：秀 80～89点：優 70～79点：良 60～69点：可 60点未満：不可
事前事後学習の内容	【事前学習について】 毎回、授業の終わりに、次回までに調べてくるべき内容について説明を行います。 【事後学習について】 毎回、授業のはじめに前回の授業の要点について質問を行いますので、自分の言葉で端的に分かりやすく説明できるように準備して授業に臨んでください。 本授業の単位修得には90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間60時間（4時間×15回）+ 自己学習時間30時間（2時間×15回）= 90時間 以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	本授業では、生成AIを積極的に活用しながら、最新の学術エビデンスの情報収集とそれらについての批判的吟味を行っていきます。生成AIの出力結果を鵜呑みにせず適切な情報解釈を身につける心がけのもと参加いただければと思います。 4年次からはじまる臨床実習では、本授業で学ぶ医学的な知識に基づく運動器疾患の理学療法評価と治療の知識・スキルが求められる場面が多々出てきます。対象者によりよい医療ができるよう、意欲的に事前事後学習や反復した実技演習に取り組んでいただければと思います。 質問への対応： 北川 孝 tkitagawa@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前にメールで希望日時についてご連絡ください）